

スクールレポート

SCHOOL REPORT 81

学校生活の
一コマを紹介

今回は、小学校での「5年生による稲作」と「果樹園の整備と栽培」の様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局 3679

神戸小学校 「5年生による稲作」

人と人とのふれあいから、ふるさとを感じて

神戸小学校の5年生は、毎年5月上旬に田植えを行っています。初めて苗を手にした子は、「こんな草から本当にお米ができるの?」と疑問をもちながら、恐る恐る田んぼに入りましたが、慣れてくると夢中になって苗を植えました。

田植え後は、稲の成長観察を定期的に行い、そこで生じた疑問を解決するために、田んぼの世話人の方を招き、学習会も行いました。

9月に入り、稲穂の頭が垂れてくると、いよいよ稲刈りです。慣れない鎌を手に稲を刈り取り、束にして学校へ運びました。乾燥後に取り組んだ脱穀作業では、下に落ちたもみを拾い集め、わずかな米も大切にしようとする姿が見られました。自分たちが育てた米に対する愛着が感じられる場面でした。

12月には収穫したもち米を使ってもちつきを行い、つき上がったもちを全校児童に振る舞いました。

このような長期にわたる活動を支えてくれたのは、田んぼの世話人、PTA役員、ボランティアの保護者の方々でした。地域の人たちの温かい心にふれ、ふるさとを愛する心がますます育ったと感じています。



▲夢中になって田植えを行う子どもたち



▲9月には、稲の脱穀を行いました

衣笠小学校 「果樹園の整備と栽培」

創立30周年の記念に、土佐文旦などを植樹



▲土佐文旦の苗木を植える子どもたち

西にシデコブシが咲き乱れる滝頭。「恐竜の背」を超えて登れば絶景が望める藤尾山。北にはゲンジボタルが飛び交う庄司川。衣笠小学校は、緑あふれる自然豊かな学校です。

昨年度、創立30周年を機に、今まであった果樹園の整備を行いました。学校西側の高台にある果樹園には、スモモ4本、ウメ2本、サクランボ1本を植えました。

また、栄巖古墳南の竹林を開墾して、果樹園に生まれ変わらせました。ここに、4年生が全校児童を代表して、「2分の1成人式」で土佐文旦35本を植樹しました。今では、どの果樹も勢いよく新芽が芽吹いています。このほかにも、毎年4月には、運動場南側の竹林で、タケノコ掘りを楽しむことができます。

自然に学び、自然とともに成長する衣笠の子どもたち。今は小さな果樹ですが、子どもも教師も実のなる日を心待ちにして、大切に育てています。